

埼玉県のグローバル人材育成について



平成24年1月31日
埼玉県教育委員会

目 次

	ページ
埼玉県グローバル人材育成について	1
埼玉県グローバル人材育成基金	2
「埼玉発世界行き」奨学金支給事業	3
中小企業若手社員海外研修支援事業	4
埼玉県海外インターンシップ促進事業	5
高校生世界へはばたけ！育成塾事業	6
世界を目指す「志」育成事業	7
高校生体験活動総合推進事業における海外授業体験	8
グローバル・ハイスクール・プロジェクト推進事業	9
語学指導等を行う外国青年招致事業	10
県立高校学力向上基盤形成事業	11～12
埼玉県思考力チャレンジ事業	13～16

埼玉県のグローバル人材の育成について

グローバル人材の育成

世界で鍛える
(若者のチャレンジ支援)

- 「埼玉発世界行き」奨学金支給事業(※)** [県民生活部] p3
- (1) 学位取得コース: 海外の大学・大学院で学位取得の留学
 - (2) 協定留学コース: 大学間協定に基づく6か月以上で単位取得の留学
 - (3) 高校生留学コース: 海外高校への、学校長の認めた3か月以上の留学
- 中小企業若手社員海外研修支援事業(※)** [産業労働部] p4
- ・中小企業の若手社員の海外企業等での研修を支援

世界に目を向けさせる
(動機付け・意識啓発)

- 埼玉県海外インターンシップ促進事業(※)** [産業労働部] p5
- ・大学生に対する県内企業の海外拠点でのインターンシップ経費助成
- 高校生世界へはばたけ！育成塾事業** [県民生活部] p6
- ・国際社会の第一線で活躍する企業人等による講演
- 世界を目指す「志」育成事業** [教育局] p7
- (1) 海外有名大学への派遣(※)
 - ・米国ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学へ高校生を短期派遣
 - (2) 高校生を対象に世界に目を向けさせる「埼玉版高校生白熱教室」を開催
- 高校生体験活動総合推進事業における海外授業体験** [教育局] p8
- ・指定校による海外の高校との交流

世界で渡り合える力を
身につけさせる
(教育の充実)

- グローバル・ハイスクール・プロジェクト推進事業** [教育局] p9
- ・県立高校(指定校)において、地球規模の視野と地域の視点を併せ持った世界で活躍できる人材を育成していく観点から新たなカリキュラムを作成し、人材育成に取り組む。
- 語学指導等を行う外国青年招致事業** [教育局] p10
- ・県立学校に外国語指導助手(ALT)を配置し、外国語教育及び国際理解教育の充実改善を図る。
- 県立高校学力向上基盤形成事業** [教育局] p11
- ・県教育委員会と東京大学との連携により、協調学習の手法の研究と実践を通じて、生徒に21世紀型のスキルを身に付けさせるような県立高校の学力向上につながる授業改善を実施。
- 埼玉県思考力チャレンジ事業** [教育局] p13
- ・中学生に教科の枠を超えた問題や日常生活に関連した問題等に挑戦する機会を提供し、生徒の思考力や学ぶ意欲の向上を図る。

埼玉県グローバル人材育成基金 (2ページ)

(※) は基金事業

埼玉県グローバル人材育成基金

国際課

1 目的

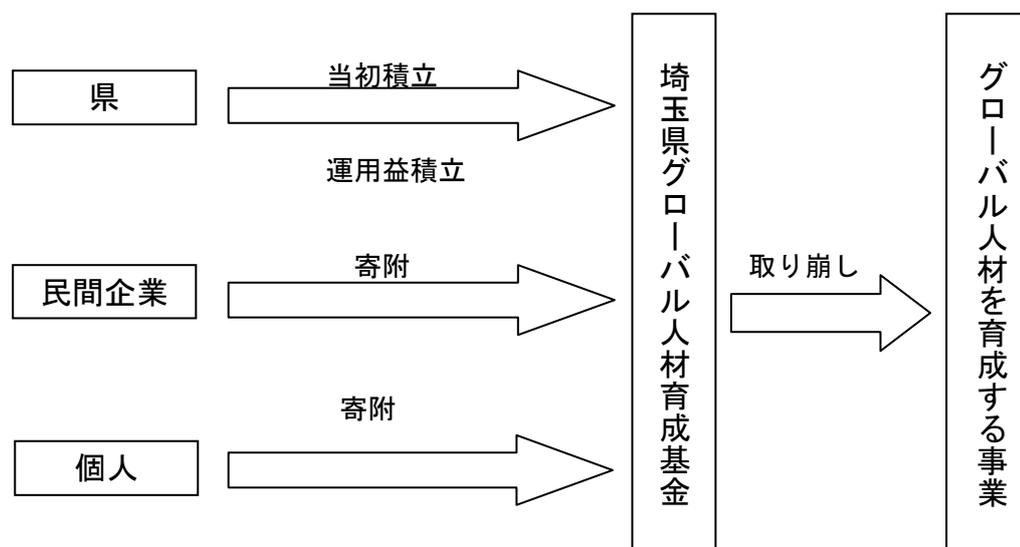
海外にチャレンジする高い志を持つ若者の海外留学支援など、グローバル人材を育成する事業の財源に充てるため、「埼玉県グローバル人材育成基金」を設置する。

2 設置期間

平成23年4月1日から平成29年3月31日までの6年間
(根拠) 埼玉県グローバル人材育成基金条例

3 平成23年度予算額

1,011,862千円(うち当初積立金1,000,000千円)
基金への寄附金は「ふるさと納税」として、税法上の優遇措置の対象となる。



4 基金を活用する平成23年度事業

- ・「埼玉発世界行き」奨学金支給(県民生活部) 76,000千円(260人分)
 - ・中小企業若手社員の海外派遣研修支援(産業労働部) 10,000千円(20社分)
 - ・大学生の海外インターンシップの促進(産業労働部) 4,000千円(20人分)
 - ・県立高校生の海外有名大学への短期派遣(教育局) 12,800千円(30人分)
- 合計 102,800千円

5 寄附の募集状況

平成23年7月から募集を開始。

(主な寄附協力者)

株式会社武蔵野銀行 2,000万円(創立60周年記念事業の一環)

ほか個人や企業 330,343円 計 20,330,343円(12月末現在)

「埼玉発世界行き」奨学金支給事業

国際課

1 目 的

海外留学を支援する「埼玉発世界行き」奨学金支給事業を実施し、経済的な支援を行うとともに、海外留学に対する機運を醸成する。

2 平成23年度の事業概要

(1) 応募・選考状況

コース	募集者数	応募者数	決定者数	奨学金額
学位取得コース (海外の大学・大学院で 学位取得の留学)	10	23	11	上限額100万円 (世帯所得により 調整あり)
協定留学コース (大学間協定に基づく6か 月以上で単位取得の留学)	200	304	226	上限額 20万円
高校生留学コース (高校在学中に3か月以上 で学校長の認めた留学)	50	31	31	上限額60万円 (世帯所得により調整 あり)
計	260	358	268	

(2) 奨学生渡航先

北米地域 147人、欧州地域 84人、アジア地域 26人
オセアニア地域 9人、アフリカ地域 1人、中南米地域 1人
(全25か国 8/5現在。)

(3) 奨学生壮行会の実施

【実施日】8月5日(金)

【内 容】・知事や県議会議長、県産業界代表者からの激励
・奨学生代表あいさつ
・奨学生へ「埼玉親善大使」を委嘱

【奨学生参加者数】125人

(4) 「海外留学フェアー埼玉発世界行きー」の実施

【開催日】12月17日(土) (場所:さいたま新都心)

【内 容】企業関係者による講演、留学相談、情報提供

3 県内金融機関との提携留学ローンの創設

【提携先】埼玉りそな銀行、武蔵野銀行

【内 容】全国最低水準の金利(2.3%)で留学生を支援

※国の教育ローン(2.55% H24.1.20現在)より低利

4 帰国後の奨学生の活用について

「グローバル人材埼玉ネットワーク」への加入

県内外国人留学生や日本人海外留学経験者等を対象にしたネットワーク
に加入し、県の産業振興や国際交流・協力活動等に御活躍いただく。

中小企業若手社員海外研修支援事業

産業労働政策課

1 事業目的

経済のグローバル化を背景として、海外での事業展開の必要性が増大している。しかし、中小企業は、国際業務に必要な情報の不足や人材不足が課題となっている。また、海外への留学生の減少など、将来、社会を担っていくべき若者の内向き化が指摘されている。そこで、企業においてグローバルに活躍できる若手人材の育成を図っていく。

2 内容

県内に主たる事業所を有する中小企業に対し、若手社員を海外企業や大学等に派遣して行う研修費用を助成。

【対象】 県内に主たる事業所を有する中小企業

【対象事業】 39歳以下（平成23年4月1日現在）の若手社員を海外の企業・大学等に派遣して行う1か月～6か月程度の研修

【対象経費】 渡航費用、滞在費（住居費）、研修費など

【補助率】 対象経費の1/2（上限額：50万円）

【交付件数】 20社（交付決定済16社） 1月現在

3 研修内容

- ・ 海外市場の視察
- ・ 商習慣の体験と理解
- ・ 海外における仕事の進め方、指導方法の習得
- ・ 海外の需要動向調査
- ・ 海外に展開している日本企業の調査
- ・ 先端技術の調査 など

4 期待される効果

応募企業は派遣した社員を海外取引、海外顧客開拓の中心的な人材としていくことを目指している。若手グローバル人材の育成を行うことにより県内中小企業の海外への展開や販路開拓が見込まれる。

埼玉県海外インターンシップ促進事業

就業支援課

1 事業の概要

県内在住・在学の大学生等を対象に県内企業の海外現地法人等へのインターンシップを支援し、グローバルな視野を持ち、海外で活躍できる若者の育成を目的とする。

2 支援の内容

(1) 経費の補助

① 補助対象者

- ・ 県内の大学・大学院等に在籍している、又は埼玉県内在住で、大学・大学院等に在籍している者（外国人留学生は除く）。

② 補助対象経費、補助率

航空運賃、保険料、滞在費等

対象経費の1/2（上限20万円）

(2) 実績等

年間20人の派遣を予定しており、夏季分として14人を派遣。研修期間は企業によって異なるが概ね2～3週間である。

受入協力企業、所在地	業種	現地法人所在地
曙ブレーキ工業(株)、羽生市	自動車部品製造	ジャカルタ（インドネシア）
カルソニックカンセイ(株)、さいたま市	輸送用器具製造	上海（中国）
(株)ガリバー、八潮市	輸出入業及びインターネットによる販売	マニラ（フィリピン）
クラウンファスナー(株)、志木市	金属製品製造	アユタヤ（タイ）
サンケン電気(株)、新座市	電気機械器具製造	ミネソタ州（アメリカ）
(株)JTB関東、さいたま市	旅行業	バンクーバー（カナダ）

(3) 今後について

県内企業4社の協力により、7名が春休み（平成24年2～3月）を利用して実施予定。

高校生世界へはばたけ！育成塾事業

青少年課

1 目的

今後の青少年に求められる国際的な視野を養い、国際人として成長するきっかけづくりとなる講演会を開催し、「埼玉から世界に羽ばたく人材」の育成を目指す。

2 内容

埼玉県内に在住、在学する高校生等を対象に、世界の第一線で活躍する企業人や留学経験者等の講演会を開催する。

○ 講演会の種類

- (1) 海外で活躍する企業や公的機関、NPO等
一般公募と企業や団体から推薦された講師による講演
協力：日本IBM(株)、(認定)NPO法人メイあさかセンター、JICA ほか
- (2) 大学及び留学経験者
大学教授、留学経験者等による講演と留学ガイダンス
協力：早稲田大学、埼玉大学、東京国際大学
- (3) 大使館発！「世界がわかる授業」
各国大使館の日本語が堪能な講師による講演
協力：駐日アメリカ大使館、駐日オーストラリア大使館 ほか

3 実施状況

本庄高校（電通）、松山高校（キヤノン）、蕨高校（早稲田大学）、和光国際高校（アメリカ大使館、JICA）、私立開智高校（住友商事）、大宮南高校（読売新聞）、浦和東高校（JTB）、浦和西高校（浦和レッズ）、越ヶ谷高校（NPO法人メイあさかセンター）

4 期待される効果

高校生の「海外で活躍したい」、「外国に留学したい」、「何かに挑戦したい」という意欲を喚起する。

5 参加者アンケート（1月23日までの集計分）

	受ける前も 思っており、 受けた後は もっと思うよ うになった。	受ける前も 思っていた が、受けた 後もあまり変 わらない。	受ける前は 思っていなか ったが、受け た後は思うよ うになった。	受ける前は 思っておら ず、受けた 後もあまり変 わらない。	受ける前より 思わなくなっ た。	合計
海外で活躍したい	881	951	1464	1886	89	5271
何かに挑戦したい	1378	1289	1802	728	88	5285
外国に留学したい	808	788	1178	2334	145	5253

世界を目指す「志」育成事業

高校教育指導課

1 趣 旨

グローバル化が進行する一方、世界に積極的に出ていこうとする若者が減少するなど若者の内向き志向が指摘される中、高校生の世界を視野に入れた高い「志」の育成を図る。



ハーバード派遣生徒事前研修会

2 事業期間

平成23年度～

3 取組内容

○ハーバード大学・マサチューセッツ工科大学への生徒派遣

- ・参加生徒30人を選考・決定（6月）、応募者数349人、書類及び論文（英語・日本語）による選考
- ・事前研修会の実施（7月、8月、11月）
- ・10日間派遣（11月13日～22日）

○学校の独自企画による海外大学等への短期派遣

- ・指定校8校を決定（4月）
伊奈学園総合、岩槻、春日部東、越谷南、所沢北、南稜、不動岡、蕨
- ・各校30人程度を1～2週間派遣（7～3月）

○埼玉版高校生白熱教室

- ・参加生徒218人
- ・世界に目を向けさせる講演と討論会を実施（11月27日）
講師：「NHK白熱教室 JAPAN」小林正弥氏

○教員の海外派遣

- ・韓国へ3人、シンガポールへ2人（10月30日～11月2日：4日間）
高校や教育機関等を視察。カリキュラム等への研究に活かす。
- ・ベトナムへ2人（3月25日～29日：5日間予定）
日本語指導やボランティアなどの国際貢献活動を体験。

4 期待される効果

- ・日本の殻に閉じこもらず、積極的に世界に飛び出していこうとする態度の育成
- ・物事を地球規模で考え、議論し、行動できる態度の育成

5 今後の取組

- ・取組内容の着実な実施と効果の検証
- ・成果を踏まえた来年度以降の効果的な事業展開方法の検討

高校生体験活動総合推進事業における海外授業体験

高校教育指導課

1 趣 旨

海外の高校と連携し、相手校生徒の家にホームステイをしながら授業、行事、奉仕活動等を体験することにより、多様な文化や価値観に気づき、豊かな人間性を備えた国際人の育成を図る。

2 指定校及び事業期間

指定校 8 校（単年度指定） 平成 1 8 年度～



老人ホームでの日本文化紹介

3 取組内容

- ・指定校 8 校を決定（4 月）
朝霞西、伊奈学園総合、大宮、大宮光陵、坂戸、草加南、深谷商業、和光国際
- ・各校が 1 5～3 0 人を 2 週間派遣（7 月～3 月）
相手校生徒の家にホームステイ（1 家庭に 1 人）
バディ（ホスト生徒）とともに外国の高校の通常授業に参加
老人介護、清掃活動、農作業等の奉仕活動や環境保護活動等
日本の伝統文化・伝統芸能等の紹介活動

4 成果

- ・「英語をもっと勉強したい」などの学習意欲の向上
- ・「日本のことをもっと勉強しておけばよかった」などの日本をよく知る必要性の再認識
- ・「今度は留学で海外に行きたい」などの留学に対する意識の向上
- ・「外国の家族はみんな家族を大切にしていた」などの家族の絆の大切さの再認識
- ・文化祭等での成果発表による学校全体の意識の向上

5 今後の取組

- ・派遣の事前指導、事後指導での英語学習、日本の伝統文化の学習の充実
- ・留学に興味をもつ生徒への「埼玉発世界行き」奨学金活用の促進

グローバル・ハイスクール・プロジェクト推進事業

高校教育指導課

1 趣 旨

地球規模の視野と地域の視点をあわせもつ次代を担う人材を育成する観点から、新たなカリキュラムの研究・作成に取り組む。

※グローバル…グローバル(global)とローカル(local)を合わせた造語。

2 指定校及び事業期間

指定校 5 校 平成 23 年度～

3 取組内容

- ・ 指定校 5 校を決定（4 月）
浦和、浦和西、大宮、大宮光陵、和光国際

<作成するカリキュラムの内容>

- ・ 目指す学校像や育成する生徒像の策定
- ・ 教育課程の策定
例) グローカル人材の育成を図る学校設定科目の作成、授業を英語で実施など
- ・ 教育活動の年間計画等の策定
例) 外部人材を活用した講義・講演、外部機関との連携による体験活動など

<カリキュラム作成のための取組>

- ・ 優秀な外国人非常勤職員の意見や助言の活用（通年）
- ・ 他県の先進校視察（通年）
- ・ 「次世代人材育成に向けた高校のカリキュラムに関する協議会」の開催（8 月、2 月）

4 期待される効果

- ・ 将来、日本や世界で活躍できる人材となるための基礎・基盤の育成

5 今後の取組

- ・ 新たなカリキュラムの試行及び改善・充実（H24）
- ・ 新たなカリキュラムの本格実施（H25）



外国人非常勤職員による指導

語学指導等を行う外国青年招致事業

高校教育指導課

1 趣 旨

県立学校に外国語指導助手（ALT）を配置し、外国語教育及び国際理解教育の充実改善を図る。

2 推進校及び指定期間

推進校 44校 平成23～25年度（事業開始は昭和62年度～）

3 取組内容

・推進校 44校を決定（4月）

春日部、春日部女子、不動岡、越谷南、坂戸、和光国際、蕨、岩槻、南稜、伊奈学園総合、大宮光陵、豊岡、川越南、所沢商業、大宮、秩父、草加南、春日部東、白岡、越谷西、三郷北、久喜北陽、川越女子、所沢北、滑川総合、朝霞西、坂戸西、狭山清陵、狭山経済、浦和、浦和第一女子、浦和西、戸田翔陽、川口北、浦和北、上尾鷹の台、大宮南、浦和東、大宮中央、熊谷、熊谷女子、本庄、鴻巣、熊谷西



ALTによる授業

<授業での活用>

- ・スピーチ、ディベート、英作文の指導等

<授業以外での活用>

- ・スピーチコンテスト、ディベート大会、英語劇コンテスト、英作文大会の指導等
- ・英語部、英検受験者の指導等
- ・イングリッシュキャンプ、海外派遣参加生徒への指導等

4 成果

- ・各種コンテスト（英作文、スピーチ、ディベート大会等）への参加希望者の増加
- ・大学入試センター試験における得点力の向上
- ・英語検定試験2級・準2級の合格者の増加
- ・ホームステイ・プログラムの事前指導での異文化理解の深まり

5 今後の取組

- ・各推進校が設定した英語力到達目標の達成状況の検証
- ・各学校の特色、生徒の実態に応じた活用方法の研究
- ・生徒が「生きた英語」を使って、聞いたり、話したり、読んだり、書いたりできるようになるためのALTの一層の活用

1 趣 旨

次の(1)～(3)目的で、東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF(コレフ)) と研究連携し、「協調学習」の手法の研究と実践を通じて、県立高校の生徒の学力向上につながる授業改善を行うとともに、21世紀型のスキルを身に付けさせ、国際社会で通用する人材としての基盤の育成に努める。

- (1) 多様な高校生に対応し、学力向上を目指した新たな授業形態と改善の方策を提言
- (2) 学習者の視点に立った、自ら学ぶ意欲をはぐくむ教材の研究・開発
- (3) 授業改善を推進する中核教員の養成

※「協調学習」：「東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構」が開発し、普及を目指す授業のあり方。学習者ひとりひとりの理解のしかたの多様性を生かして、学習者同士の対話を通じて理解を深めようとする学習方法。

2 指定校及び事業期間

研究指定校 13校、研究協力校 19校 平成22～23年度

※研究指定校は、公開授業を必ず実施。研究協力校は、できるだけ実施。

3 取組内容

研究指定校及び研究協力校から招集した教員(研究推進委員)が、東京大学 CoREF の研究スタッフとともに、「協調学習」の手法を活用した授業案や教材の作成及び授業での実践を行う。生徒の思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力などを育成するとともに、授業に対する積極的な態度や主体性を養う。

4 取組状況について

(1) 平成22年度

研究指定校：9校(浦和、大宮光陵、春日部女子、越ヶ谷、越谷北、秩父、戸田翔陽、富士見、吉川)

研究協力校：1校(浦和第一女子)

研究対象教科：6教科(国語、地歴、数学、理科、英語、美術)

研究推進委員：26名(国語7、地歴3、数学5、理科4、外国語4、美術3)

全体研究会：4回(他に教科別分科会は9回)

公開授業実施校：6校(研究授業は公開・非公開を合わせて23授業)

全体報告会：平成23年1月29日(土)於・さいたま文学館

(2) 平成23年度

研究指定校：13校(22年度に加え、上尾鷹の台、熊谷西、庄和、草加西)

研究協力校：19校(22年度に加え、伊奈学園総合、桶川西、川口北、川口青陵、川越女子、

熊谷女子、越谷総合技術、越谷東、坂戸西、狭山経済、狭山緑陽、白岡、南稜、鳩ヶ谷、吹上秋桜、松山、松山女子、皆野)

研究対象教科：8教科(22年度に加え、公民、家庭)、68の授業実践

研究推進委員：67名(国語14、地歴7、公民5、数学9、理科11、外国語12、美術5、家庭3)

全体研究会：4回(他に教科別分科会は12回)

公開授業実施校：20校(研究授業は公開・非公開を合わせて51授業)

全体報告会：平成24年1月21日(土)於・戸田市文化会館

5 今後の主な取組について

「協調学習」について、これまでに作成した授業案をホームページ上に公開し、その普及と推進を通じて、生徒の思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション能力を高める。また、引き続き東京大学 CoREF と連携・協力体制を維持し、研究推進を図るとともに、教員研修で「協調学習」の手法を活用して、その普及と推進を図る。

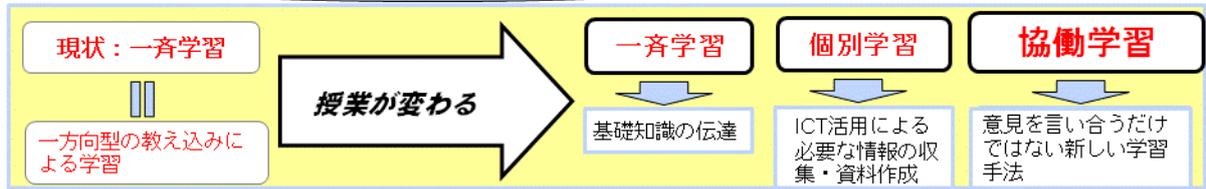
未来を拓く「学び」推進事業(予定)

現状・課題

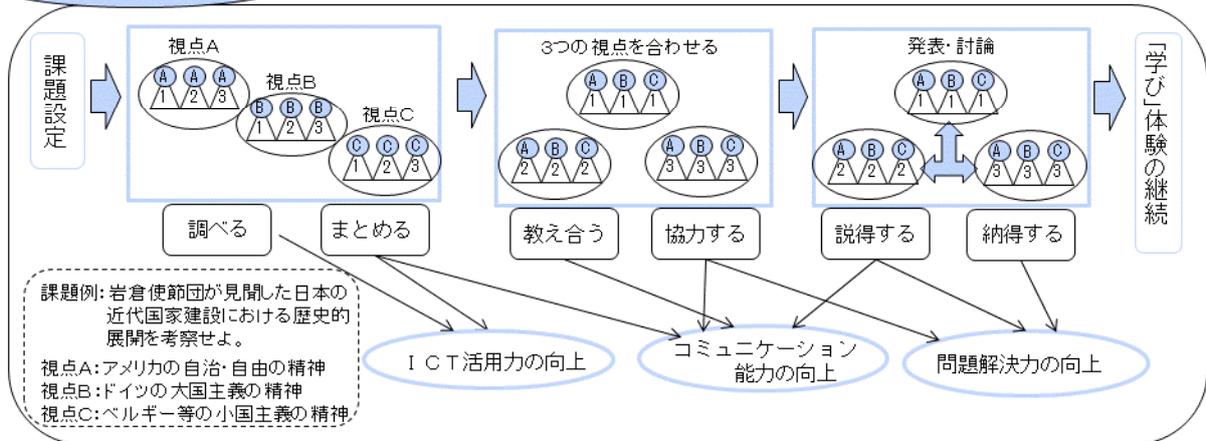
- OPISA型学力(読解力)の伸び悩み→アジアで5位(H21)等
- 授業で自分の意見を発表する高校生→5.5%(教育振興基本計画策定に係る意識調査H19埼玉県)
- 企業が新規採用にあたって重視する点→コミュニケーション能力1位・81.6%(H21日本経済団体連合会調査)
- 国語・数学・理科の授業でコンピュータを使用する生徒の割合→OECD諸国中 最下位(H21PISA調査)

目的 **知識集約型産業社会を見据えた人材育成**
(将来を担う生徒に不可欠なコミュニケーション能力、問題解決力、ICT活用力の育成)

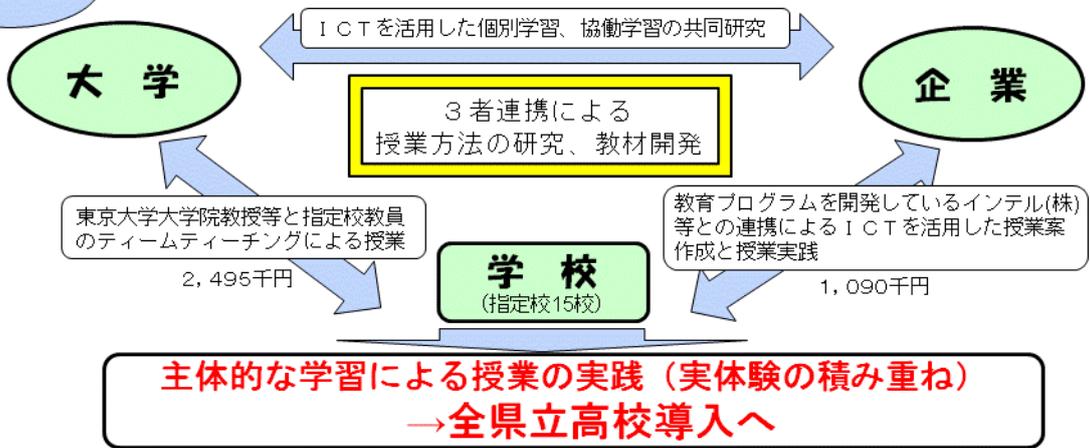
「学び」が変わる! ~受け身型学習から主体的な学習へ~



これからの協働学習



事業内容



平成23年度埼玉県中学生思考力チャレンジ大会実施要項

埼玉県教育委員会

1 趣 旨

- (1) 埼玉県の中学生に、教科の枠を超えた問題や日常生活に関連した問題等に挑戦する機会を提供し、生徒の思考力や学ぶ意欲の向上を図る。
- (2) 将来において国際社会で活躍できる人材の育成に資する。

2 日 時

- (1) 地区大会 平成23年11月13日(日) 9:40~11:50
- (2) 県大会 平成23年12月18日(日) 9:50~15:00

3 主 催 等

- (1) 主 催 埼玉県教育委員会
- (2) 後 援 埼玉各市町村教育委員会連合会 埼玉県中学校長会
埼玉県PTA連合会

4 会 場

- (1) 地区大会会場 (県内10会場で実施)
県立川口北高等学校 県立上尾高等学校
県立所沢高等学校 県立川越総合高等学校 県立滑川総合高等学校
県立熊谷西高等学校 県立本庄高等学校 秩父地場産業センター
県立不動岡高等学校 県立越谷北高等学校
- (2) 県大会会場 県立総合教育センター

5 対 象

- (1) 地区大会 ・ 中学校1~3年生(県内公立中学校に通学している者)
- (2) 県大会 ・ 地区大会の成績上位者200名程度

6 出題内容等

- (1) 出題内容 思考力を問う問題
- (2) チャレンジ時間 100分間

7 当日の日程

- (1) 地区大会 平成23年11月13日(日)
9:00~ 9:40 受付
9:40~10:00 注意事項等説明
10:00~11:40 チャレンジタイム
11:40~11:50 解答回収、諸連絡、解散
- (2) 県大会 平成23年12月18日(日)
9:20~ 9:50 受付
9:50~10:10 注意事項等説明

10:10～11:50	チャレンジタイム
11:50～12:00	解答回収、諸連絡
12:00～13:00	昼食、休憩
13:00～14:00	科学等に関する講演
14:00～14:30	解答合わせと問題解説
14:30～14:50	表彰式、講評
14:50～15:00	解散

8 地区大会の参加手続き等

(1) 参加料 無料

(2) 参加手続

ア 義務教育指導課は、各学校を通じて申込書付きのリーフレット（チャレンジシート）を全対象生徒に配布する。（6月下旬）

イ 希望する生徒は申込書を切り取って学校に提出する。（7月）

ウ 各中学校は、申込書を取りまとめ該当市町村教育委員会に提出する。（7月）

エ 各市町村教育委員会は、管内中学校分の申込書を取りまとめ、該当教育事務所に提出する。（8月）

オ 各教育事務所は、管内市町村教育委員会分の申込書を取りまとめ、義務教育指導課に提出する。（8月）

カ 義務教育指導課は、県内全ての申込書を取りまとめ、参加状況を確認する。

キ 義務教育指導課は、希望する生徒を地区ごとに振り分け、地区大会エントリーカード（チャレンジ地区大会参加証）を市町村教育委員会に配布する。（10月）

ク 市町村教育委員会は、学校ごとに分けられている地区大会エントリーカード（チャレンジ地区大会参加証）を管内関係中学校に配布する（10月）。

ケ 各中学校は、地区大会エントリーカード（チャレンジ地区大会参加証）を対象生徒に配布する。（10月）

コ 生徒は、地区大会エントリーカード（チャレンジ地区大会参加証）に指定された会場でチャレンジ地区大会（11月13日）に参加する。原則として会場の変更は認めない。

(3) 申込締切日 7月20日（水）

9 県大会の参加手続き等

(1) 参加料 無料

(2) 参加手続

ア 義務教育指導課は、「5 対象 (2)県大会」参加に該当した生徒に県大会エントリーカード（チャレンジ県大会参加証）を配布する。（自宅及び学校あてに郵送）

イ 県大会に参加する生徒は、県大会エントリーカード（チャレンジ県大会参加証）を会場に持参し、チャレンジ県大会に参加する。（12月18日）

10 結果の通知及び表彰

(1) 地区大会

ア 結果（点数等を表記した個票及び県大会出場の可否等）は、11月末日までに学校を通じて参加した生徒に知らせる。

イ 地区大会での表彰は行わない。

ウ 参加した生徒に参加賞を授与する。

(2) 県大会

ア 結果（点数等を表記した個票等）は、当日の午後に参加した生徒に知らせる。

イ 県大会当日の午後に次の表彰を行う。

最優秀賞（県大会参加者のうち、成績最上位の者）

優秀賞（県大会参加者のうち、成績最上位に準じる者）

優良賞（県大会参加者）

ウ 成績上位の生徒約50名を対象に、県内科学施設等の見学や体験を実施する。

11 持ち物等（地区大会、県大会共通）

(1) 持ち物 エントリーカード、筆記用具、消しゴム、上履き、外履きを入れる袋

(2) 服装 通学服（制服）

(3) その他 ・常備薬や防寒具等は、各自の判断で必要に応じて用意する。
・弁当は県大会のみ必要に応じて持参する。（県大会では、昼食をとる場所を準備する。）

12 科学施設等での見学や体験

(1) 県大会において上位50名程度の生徒を対象に、県内にある科学施設等における見学や体験を実施する。

(2) 具体的な案内は郵送により該当生徒に連絡する。ただし、参加については希望による。

(3) 視察に係る交通費、見学・体験費等は県教育委員会が負担する。集合場所までの交通費、昼食代等は参加する生徒が負担する。

13 その他

(1) 地区大会、県大会ともに、チャレンジ会場となる教室の他、保護者控え室及び救護室、本 部 役員室を用意する。

(2) 貴重品等の一時預かりはしない。各自の責任で管理する。

(3) 保険等の加入手続きは行わないので、生徒は会場への移動等について十分に留意する。

埼玉県中学生思考力チャレンジ大会について

1 地区大会の概要

(1) 会場別参加生徒数と運営委員数

	会場名	参加生徒数（学年別内訳）				運営委員
		総計	1年生	2年生	3年生	
A	県立上尾高等学校	154	33	62	59	9
B	県立川口北高等学校	117	23	32	62	8
C	県立川越総合高等学校	95	23	38	34	7
D	県立所沢高等学校	56	14	18	24	5
E	県立滑川総合高等学校	54	23	7	24	5
F	秩父地場産業センター	52	4	9	39	5
G	県立本庄高等学校	30	1	9	20	4
H	県立熊谷西高等学校	110	23	55	32	6
I	県立不動岡高等学校	168	41	40	87	10
J	県立越谷北高等学校	143	33	33	77	9
	合計	979	218	303	458	68

(2) 平均点 57.9点

(3) 最高得点 100点満点（2名）

2 県大会の概要

(1) 参加生徒数と運営委員数

	会場名	参加生徒数（学年別内訳）				運営委員
		総計	1年生	2年生	3年生	
	県立総合教育センター	191	31	49	111	25

(2) 平均点 60.3点

(3) 表彰
 最優秀賞 最高得点者 100点満点（1名）
 優秀賞 最高得点に準じる得点者 70点以上（47名）
 優良賞 県大会出場者（最優秀賞（150名）
 優秀賞受賞者除く） ※当日欠席者7名含む

3 今後の取組（予定）

(1) 科学施設等での見学や体験会 平成24年3月18日（日）

(2) 大会の総括（冊子の作成と配布） 平成24年3月（配布は4月）

4 備考

地区大会及び県大会の問題と解答例、出題のねらいを次のホームページアドレスに掲載しておりますので、必要に応じて御活用ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/shikouryoku.html>



埼 玉 県

お問い合わせ

埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課

担当 木村・杉田

電話 048-830-6772

野上委員

電話 042-394-8939